

●蛍の集いと里山音楽会（6月18日）

今年も蛍の季節がやってきました。里山農園に集まり、今年も蛍の集いと里山音楽会を開きました。農園内の紹介、火起こし機の製作と火起こし体験、ウクレレと大正琴の演奏、ホタルクイズのあと、ホタル観察と盛り沢山の内容でした。



どんどん変わっていく世の中で、ほっと一息 昔からある大自然に目を向けてみませんか？変わらない大切なもの、意識して見に行かないと見れなくなった大切なもの、なくなってほしくない大切なものを守り続けたい。それが、やましろ里山の会です。皆さんと大自然に触れ、きれいな蛍を見ながら素敵なひと時を過ごせたらと思います。蛍は今年も見れるかな？今年には蛍に加えて、元祖火起こし器を作ってみました。原始時代にタイムスリップ？便利な世の中にもそんな時間が必要ではないでしょうか。



この日は苦労しながら火起こし器を作成して火起こしの体験をしました。また、ウクレレを5人のお母さんが演奏し、森さんや小川さんが大正琴で伴奏され、声を上げて楽しく歌っておられました。蛍は自然のまま出現してくれて、素手に止まってくれたりして感激されていました。

「火起こし装置を手作りで作成して、火をつけるところまでたどり着けて、面白かった」との感想をいただきました。またクワガタが大変たくさん集まり、ノコギリクワガタが30匹程度トラップに集まってきていました。しかし、ほかの種類のクワガタの姿はあまり見かけられませんでした。

●ヤマトサンショウウオ生物調査（6月19日）15人の参加

ヤマトサンショウウオは、京都府自然環境保全課が指定する25種の「絶滅の恐れのある生き物」のうちの1種です。打田地区でヤマトサンショウウオの卵嚢が最初に発見された2007年から、山を越えたところで卵嚢が再発見されるまで10年を要しました。さらに1年後の正月には、京都大学の福山さんが成体を確認されました。その後、やましろ里山の会が調査観察を継続した結果、2020年には35個の卵嚢が観察されました。いっぽう、2022年には生育池付近から下流の田圃に土砂が流出したため、2月に土砂流出防止水路が施行されました。この時に大きな環境変化を生じましたが、数日後に産み付けられた卵嚢が確認されて一同安堵した次第です。

さて、この度自然環境保全京都府ネットワークの皆様の協力によって、ヤマトサンショウウオ生育池周辺の総合的な生物環境調査計画の提案をいただきました。調査の目的は、ヤマトサンショウウオの餌になる動物群集や湿地環境の特徴と



現状を把握することにあります。今後、ヤマトサンショウウオの生息地を保全していくために、現状の課題や対策を検討する必要があります、今回の調査によって、検討に役立つ情報をご提供いただけるものと期待しています。まとめの会議での論議になった点は次の通りです。

○生体を確認できた 大きな成果であった

○危険分散 対応すべきではないか 現状が維持されているのでは必要ない 東部地域での生育地を探索を

○竹対策 竹の進出による環境悪化が心配 湿地に竹は進出していない

○酸素溶解度 肺呼吸の生きものが中心 鰓呼吸の生きものは生きられない (COD)

○落ち葉などによる腐食度による富栄養化と酸素不足 2・3・4の池の清掃と経過観察を

○地域に対する京都府の在り方 ガイド書 府の姿勢を具体化を 取り組む 里山の会は可能性高い

○生育池の公開 保存方法のメリットデメリットあり

○研究発表会の開催 本日は非常に有意義だった 今後継続していきたい

○次回雲ヶ畑開催 本番 8月27日 事前調査 8月5・6・7日



●同志社大学のボランティア活動募集の為の活動体験の申し込み 6月25日(土)10時~12時受け入れます
作業は、里山農園でこれまで植林してきたドングリの苗木が大きくなって詰まってきたので、間引きをして、間隔をあけるための植えなおしを実行します。来所されるのは5名の学生さん達で、この経験を他のボランティア希望者に紹介されるそうです。また後半の1時間は里山の会の取り組みの紹介の準備をしています。木津川での魚とりや、炭焼き体験 野菜栽培 中聖牛の組み立てや 竹蛇籠の製作 里山農園での希少種の管理 木津川での絶滅危惧種の植物の維持管理作業などをお伝えできればと計画しています。そのほか普賢寺の村の歴史などが面白いと思われます。一緒に学びたいなあと思われる方はぜひお越しください。お待ちしております。

●7月の予定

7月2日 里山農園 ジャガイモ堀り	7月3日 オオムラサキ観察会「夏の昆虫観察会」
7月12日 農機具の安全使用講習会	7月16日 夜の生き物調査